2021 年 2 月 1 日

≪青少年健全育成情報≫

海外留学を支援する「青少年交換事業」

国際ロータリークラブが世界 100 カ国以上で実施している青少年交換事業は 15 歳～ 19 歳の学生が海外に滞在し言語や文化を学びながら海外に友人をつくり世界市民として自覚を養うことができるプログラムとなっています。現在はコロナ蔓延で中断していますが毎年、日本国内からの派遣留学生はおよそ 400 人、世界中ではおよそ 8000 人の高校生が海外での留学生活を送っています。青少年健全育成をアイデンティティとしている東京本郷ロータリークラブでは派遣留学生が異文化を理解し、国境を越えた友情と信頼を築く機会が世界平和を少しずつ実現できるという想いで支援しております。派遣候補生は留学先が決まるまでの１年間、青少年交換プログラムの基本ルールや家庭生活、学校生活、日本の観光文化などのオリエンテーションを数回にわたり保護者とともに学んでもらいます。留学中の１年間は迎え入れて頂く家庭が２～３回変わり、生徒はそれぞれの場合において学校などその国、家庭で当たり前の日常生活を過ごしてもらうことが求められていますが、どのような国に派遣されても相手国のロータリークラブが責任を持って留学生をケアし、その留学の成功をサポートしてくれます。

交換留学生になるにはロータリークラブの高校生向け公募に申し込んでもらいます。なお留学に必要な殆どの費用はロータリークラブが負担しています。東京本郷ロータリークラブでは 1993 年からこの青少年交換事業に取り組み現在までに日本から 11 名の高校生をオーストラリア、スロバキア、ブラジル、イタリア、ベルギー、アルゼンチン、ハンガリー、チェコ、フィンランドへ派遣しており、海外からはオーストラリア、カナダ、ブラジル、スイス、ベルギーの高校生 6 名を留学生として受け入れてきました。これらの交換留学生の交流機関として「本郷国際友の会」を立ち上げ定期的な交流会も開催しています。青少年交換事業は単に語学を学びに行くためのものではなく国際交流のための親善大使の役割も担っており派遣先での文化を積局的に知り友達をつくるだけでなく自国の文化や歴史を紹介し、知ってもらうことも重要な役目としています。

（東京本郷ロータリークラブ）